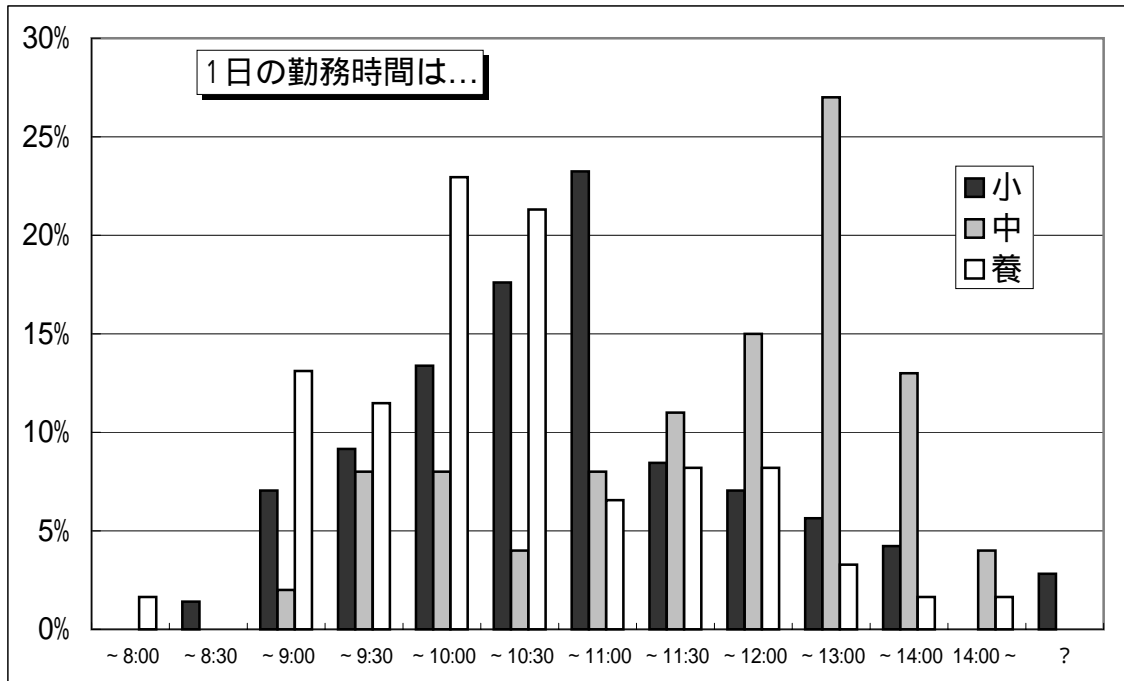


2005年神戸市教育白書

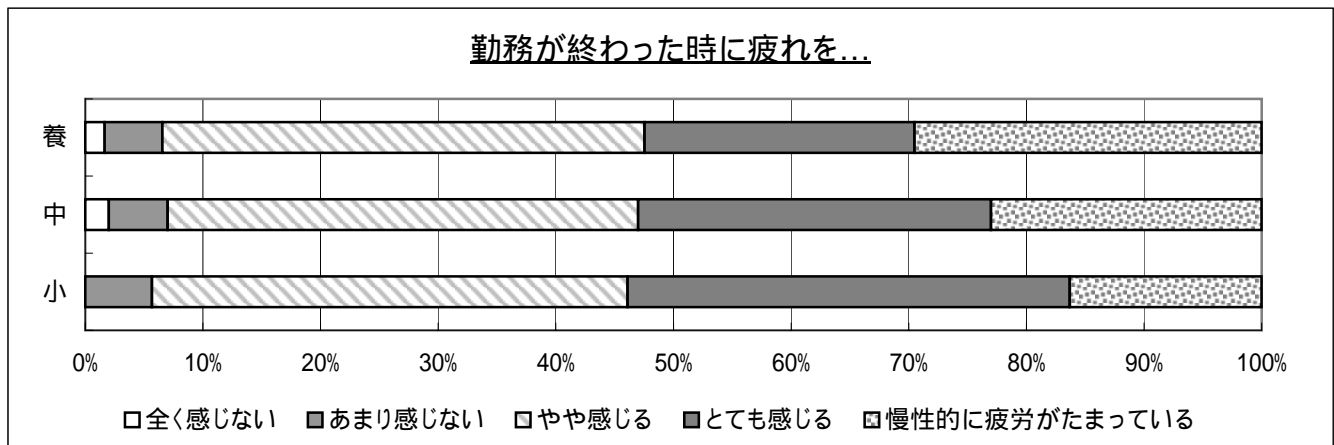


「働き過ぎていませんか
働き方を見直して
心と体の健康作り」

「1日に8時間の労働、8時間の休息、8時間の社会的活動」

第1回メーデー(1886.5/1.アメリカ)のスローガンより

2005年度 全国
労働安全衛生週間
スローガン

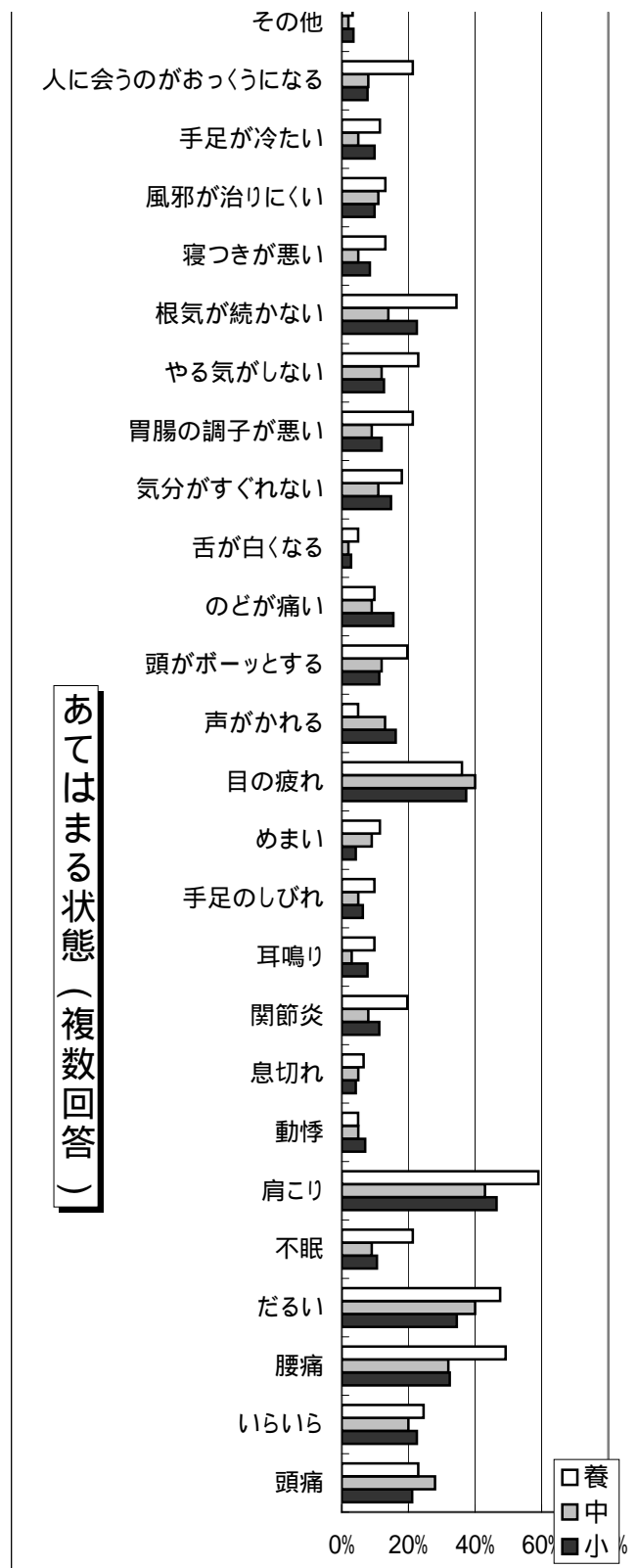


全教神戸市教職員組合

その他

目次

0. はじめに
1. 基礎データ ~ 職種・年齢・男女比
2. 職場の忙しさはどうか？
 - 2-1 忙しさの状況
 - 2-2 忙しさの原因は？
3. 健康状態はどうか？
 - 3-1 健康状態
 - 3-2 あてはまる症状は？
4. 勤務が終わった時の疲れ具合は？
5. 過労死の危険を感じることはありませんか？
6. 1日の勤務時間
 - 6-1 出勤時刻
 - 6-2 退勤時刻
 - 6-3 勤務時間 ~ 職場にいる時間
7. 年休を取っていますか？
 - 7-1 昨年度の年休は？
 - 7-2 その内、長期休業中の年休は？
8. 昨年度、長期休業中の研修は？
9. 家に学校の仕事をもち帰ることは？
10. 子どもとの対話や指導などに十分な時間は？
11. 今の仕事をやめたいと思ったことは？
12. 今年度、強く要求したいひとは何ですか？
13. 「35人以下学級」について ~ 自由記述
14. 職場で改善してほしいことや、教育委員会に言いたいこと
15. 施設・設備の要望



(1)

0. はじめに 「ちょっと心配 だったら行動」

2005年度の全国労働安全衛生週間スローガンは、「働き過ぎていませんか 働き方を見直して 心と体の

健康づくり」でした。1950年から毎年実施されているこの週間で、長時間労働問題が取りあげられたのは、今回が初めてでした。

厚生労働省は、「過重労働による健康障害や、メンタルヘルス不全などの健康問題が重要な課題」と指摘しています。そして、「労働時間が長時間になることがないよう働き方を見直し、心と体の健康づくりを進めましょう」とよびかけています。

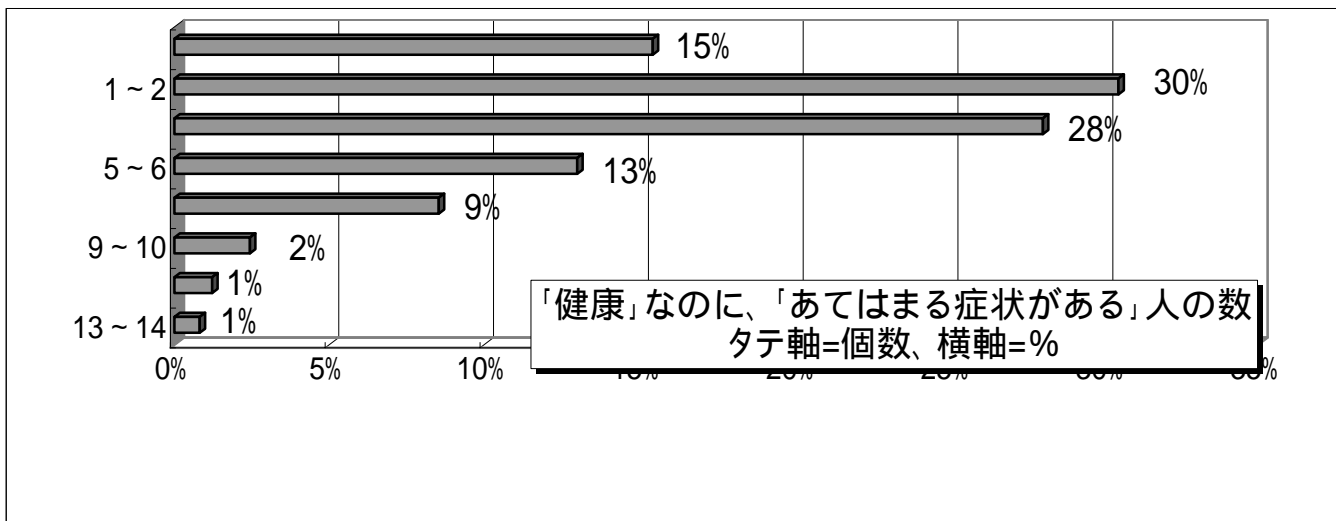
その取り組み内容は、時間外労働の削減 年次有給休暇の取得促進 産業医による指導等の実施 心と体の健康づくりに関する教育研修の実施 などです。

厚労省の調べでは、過労死など脳・心臓疾患による労災認定件数は、年間300件前後と高い水準で推移しています。

2004年度の同省のデータでは、仕事や職場生活に関する強い不安、悩み、ストレスを感じる労働者は6割超。精神障害による労災認定(自死を含む)は年々増加し、130件に及んでいます。

一方、神戸市の第33回職員安全衛生週間(10/1~7)のテーマは「ちょっと心配 だったら行動」でした。市職員全体の健診結果は、「要精検」が2割でした。教職員は、さらに多いことが予測されます。

例えば、今回のアンケートで、「健康だ」と答えながら多くの自覚症状を訴えている人がいます。「無病息災」や「一病息災」どころか、「数病息災」を抱えながら、多忙な毎日を暮らしている人が多いのです。すなわち、「健康である」と答えた77%のうちで、「あてはまる状態」がない人は15%しかいません。それに対して、グラフのように。中には、14個記した人もいました。これが教職員の実態です。



今回の白書でも、「超長時間労働」についても、新たな悲惨な実態が明らかになりました。

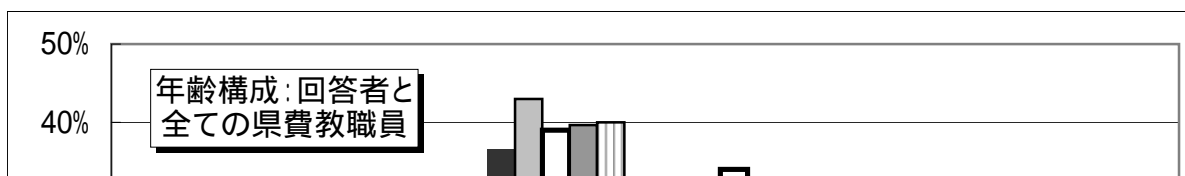
2006年度予算要求交渉では、これらの深刻な労働負担の実態を訴え、切実な要求の実現を迫りたいものです。根拠のない「公務員削減」攻撃に対して、「教職員の定数増」の声を大にしましょう。「教職員にゆとりがあってこそ 子どもにもゆとりをもって接することができる」というのが、大半の教師の願いです。

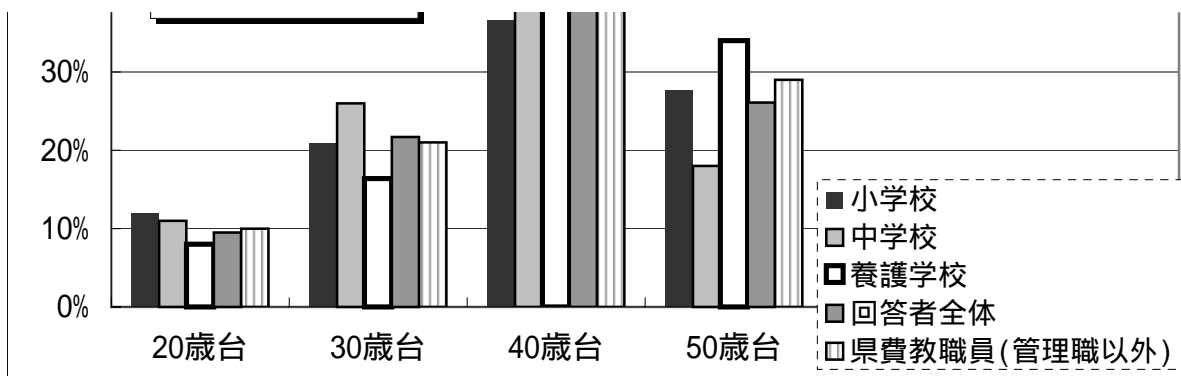
この白書では、職場の生の声も出来る限りたくさん掲載しました。

昨年に続いて、今回も「施設・設備に関する要求」もまとめてみました。ご協力ありがとうございました。

(2)

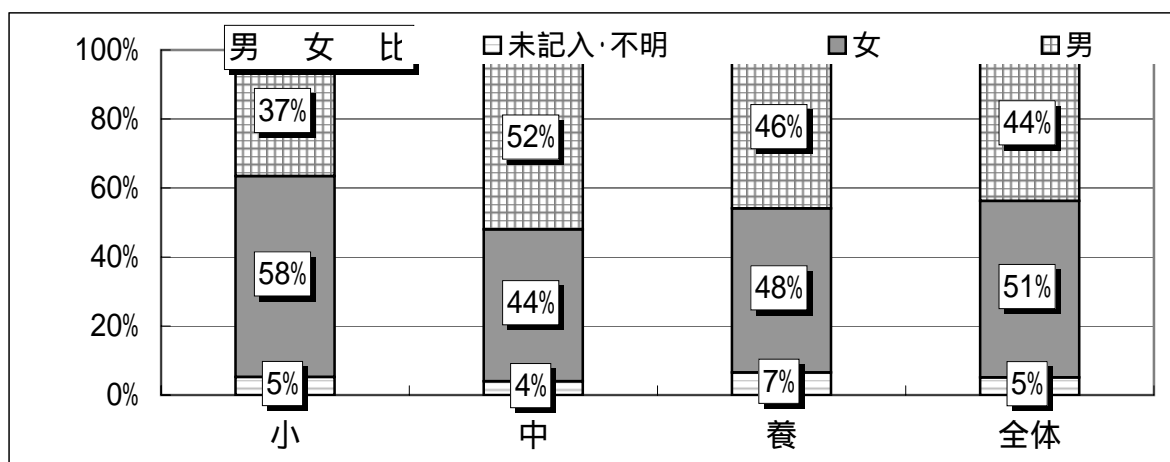
1. 基礎データ ~ 職種・年齢・男女比





分析 1 - 1 年齢比

教職員の世界にも、「2007年問題」は深刻です。ひしめく50台後半がこれから退職を迎え、教育活動の継続や教育技術の伝承等、今やらないと後には回せない課題が山積しているのです。今後数年、100名単位の採用が必要で、これは雇用対策にもなります。



分析 1 - 2 男女比

小学校と養護学校では、女性教職員が男性教職員より多い傾向になっています。中学校では、逆に、男性教職員が多くなっています。

	小	中	養	全体
教員	83%	86%	76%	83%
事務職員	1%	1%	2%	1%
栄養職員	2%	1%	1%	1%
養護教員	7%	5%	2%	5%
講師等	7%	7%	19%	9%

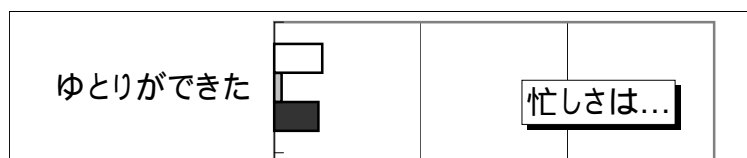
分析 1 - 3 職種の構成比率

教職員の8割前後が教員です。しかし、事務職員・栄養職員・養護教員・講師(非常勤・常勤等)に加え、管理員・介助員等、多様な職員が学校には必要かつ重要です。欧米では、さらに安全のための職員も配置されています。

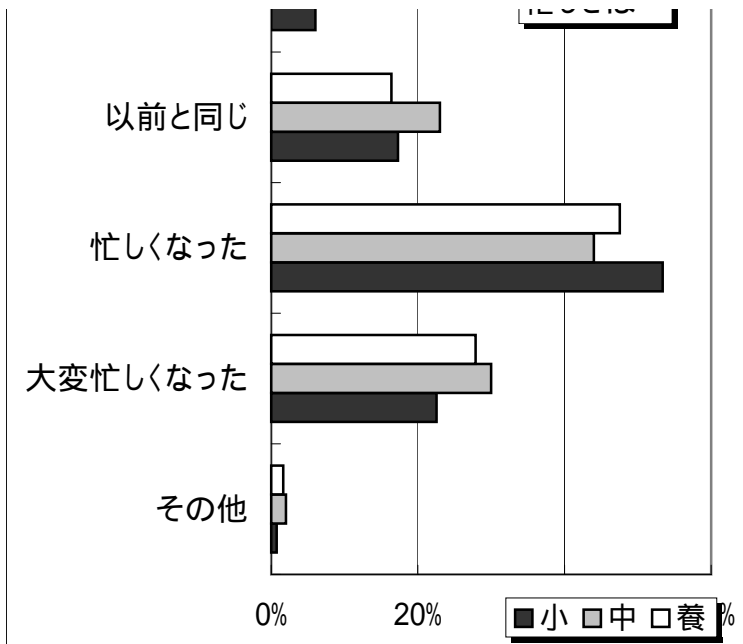
(3)

2. 職場の忙しさはどうか？

2-1 忙しさの状況



「以前と同じで忙しい」と答えたのは中学校の先生です。「ずっと前に比べたら、とても忙しくなった」と答えたのは小学校の先生です。「授業の



なつた」と合えたのは小学校の先生が9。「授業の多様さ」と書いたのは養護学校の先生です。「ゆとりができた」と答えたのは、どの校種も1割以下でした。

また、「親との対応や家庭訪問」とあったのは小学校の先生。中でも、「教員の少ないこと。事務の多さ。親の難しさ」と3大要因をあげた人もいます。共感できる人は多いでしょう。自由記述で「学級事務」を忙しさの要因にあげた人もいます。

阪神・淡路大震災の直後、一ケタ採用の時期が続きました。この数年、採用はふえつつあるものの「中間層のうすさ」というある回答者の指摘は実態を反映しています。

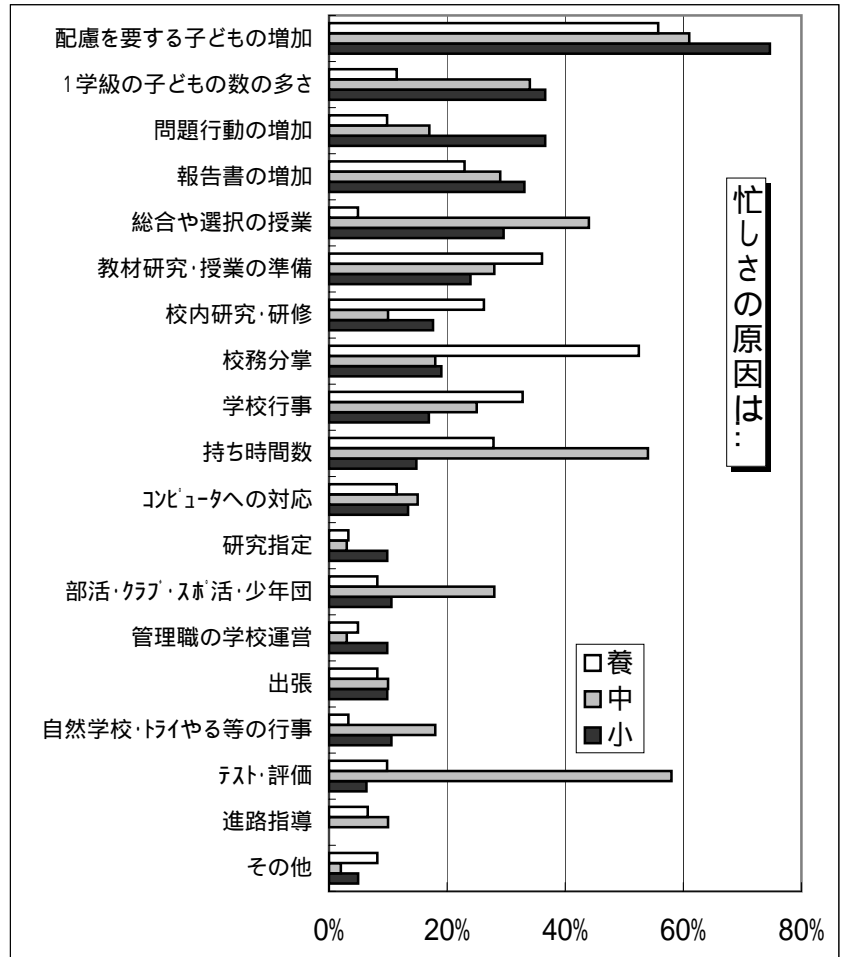
2-2 忙しさの原因は？ <その1>

小学校では7割が「配慮を要する子どもの増加」を忙しさの要因にあげています。

「1学級の子どもの数の多さ」は、2年前も今回も小学校では4割近くの方が忙しさの要因にあげています。30人学級の実現は、緊急かつ重大な課題だといえます。

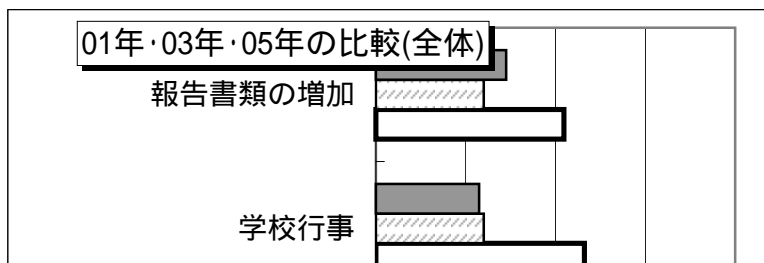
中学校で「テスト・評価」「持ち時間数」をあげる人が多くいます。特に「5段階絶対評価」を忙しさの要因にあげる人が6割近くいます。また、「部活動の顧問やあり方についてはっきりした位置づけを!!」とコメントしている人もいました。

養護学校では「校務分掌」「校内研究・研修」を忙しさの要因にあげる人が5割います。「授業の多様さ」と相まって、忙しさに拍車をかけています。



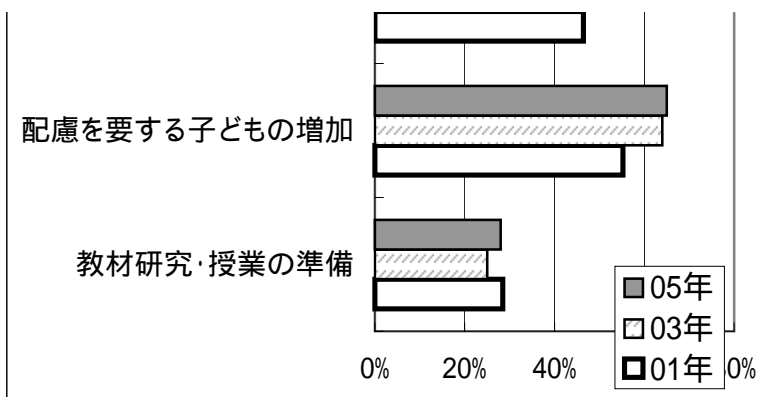
(4)

2-2 忙しさの原因は？ <その2>



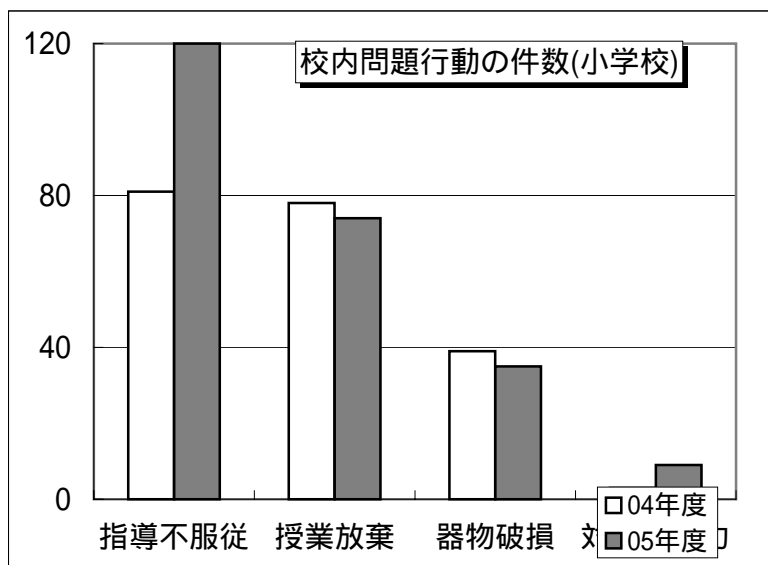
教職員の多忙化はますます悪化しています。いくつかの項目について、01年・03年のデータと比較してみました。

忙しさの原因に「報告書の増加」をあげた人は前回(03年)より増えました。「配慮を要



する子どもの増加」は前回、前々回(01年)より多くなり、6割を超えています。

「学校行事」と「教材研究・授業の準備」は、2回のデータを見ると2割のままで横ばい状態です。これは、多忙化が常態化しているといえるでしょう。

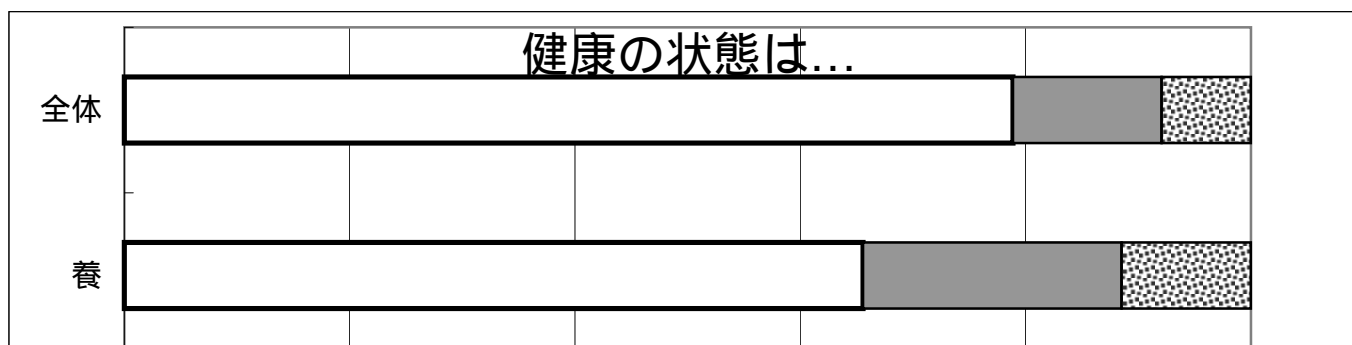


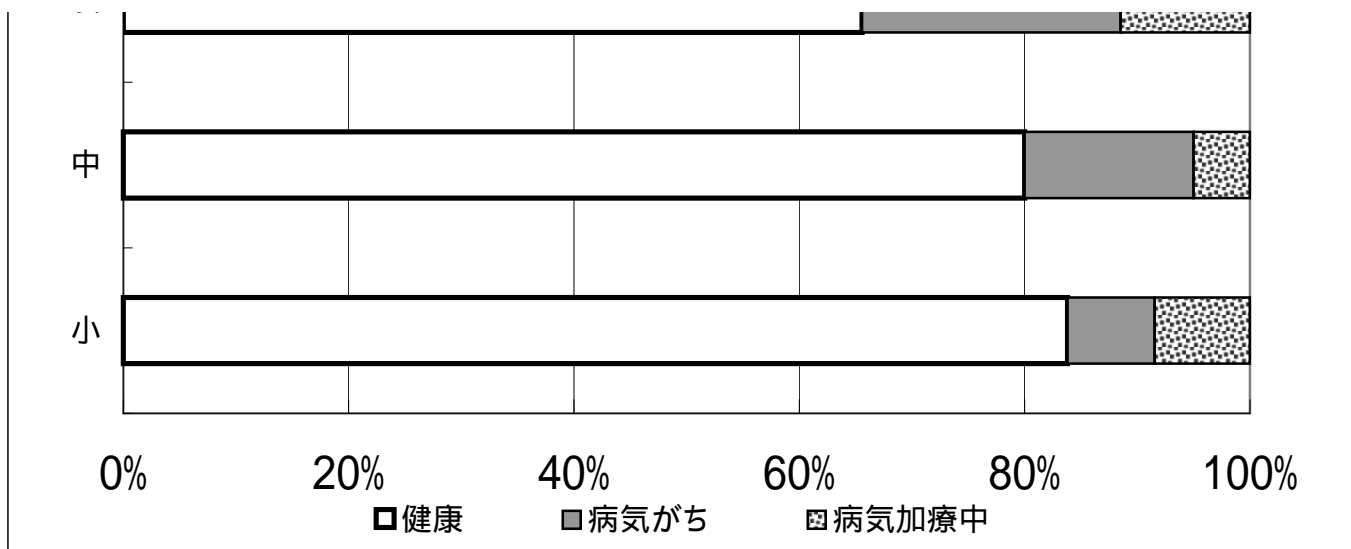
小学校では「問題行動の増加」をあげる人が1/3を超え、中学校の倍近くいます。

市教委発行の季刊「せいとしよう」No.65でも、それを示すデータがあります(左図)。これによれば、「指導不服従」が1.5倍になっています。絶対数(報告件数)は少ないとはいえ、「対教師暴力」は倍増しています。

(5)

3. 健康状態はどうですか？



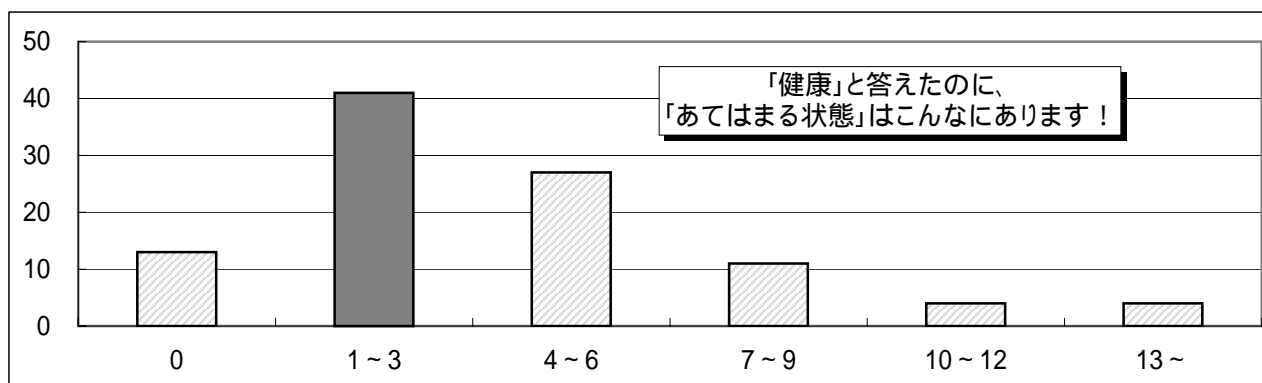


3-1 健康状態

「健康状態はどうか?」という設問は、「健康」、「病気がち」、「加療中」の3つの選択肢にしたため、「健康」が7~8割を示しています。

病気加療中の方の病名は「高血圧」、小学校は「頸椎間板ヘルニア」「うつ病」「高血圧・高脂血症」「どのホリフ」が主な病名です。

子どもの重度・重複化が進む養護学校では、「加療中」と答えた方が1割超あります。「うつ状態・慢性肝炎」「腎臓結石」が主な病名です。



「健康」と答えたのに、「あてはまる状態はどれですか?」とたずねられて、1~3個選んだ方、いわゆる「一病息災」が4割強います。中には10個以上あげている人もいます。「病気がち」という程でもないが、自覚症状が極めて多い人もいます。

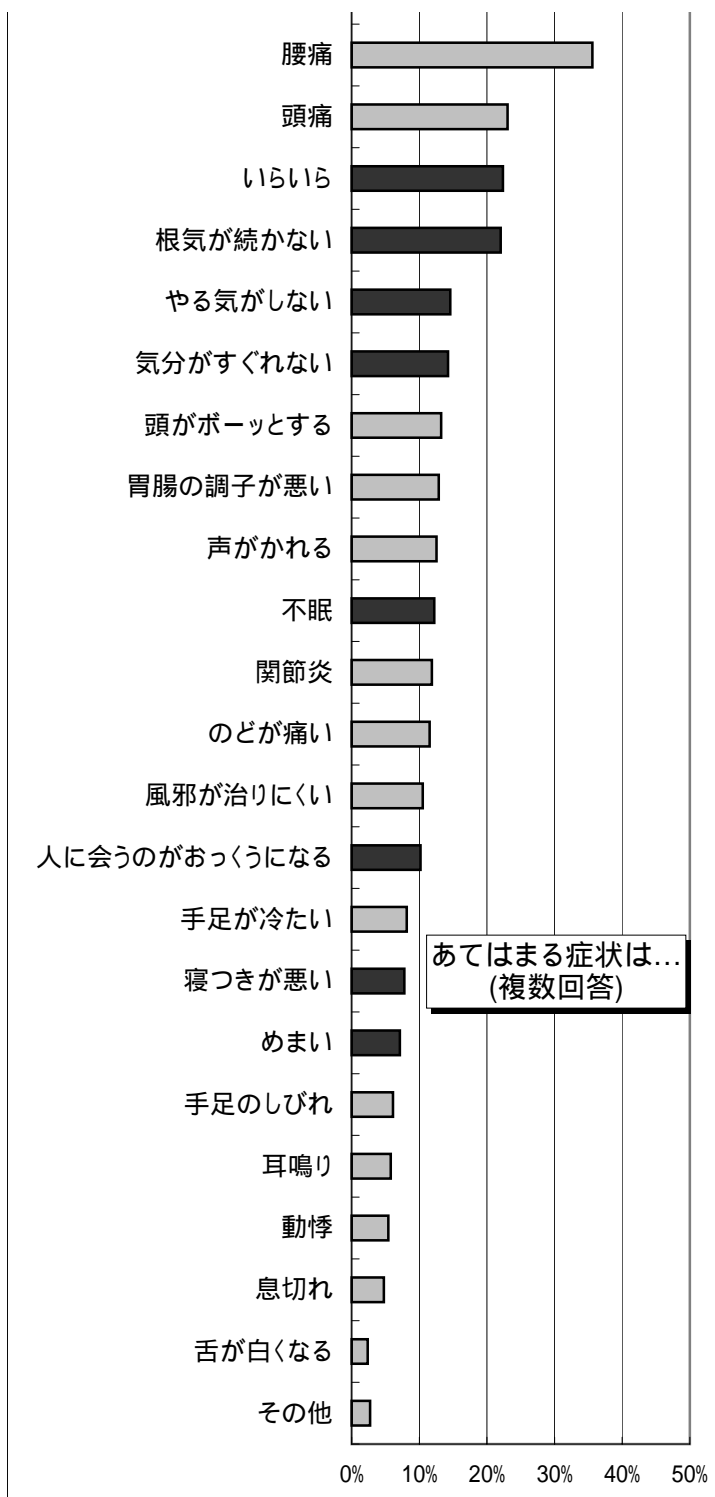
(6)

3-2 あてはまる症状は?

「あてはまる症状は何ですか?」という質問に対する回答を、多いもの順にならべてみました。

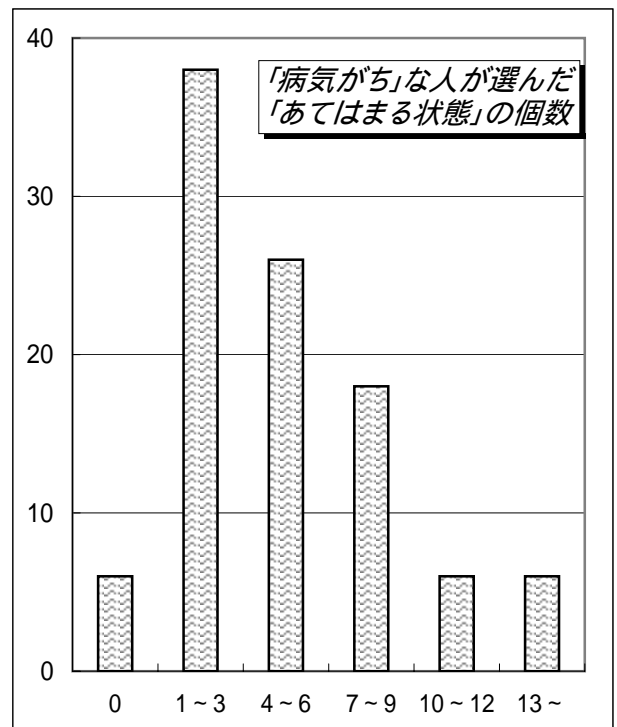


まず、半数近くが「肩こり」をあげています。「だるい」「目の疲れ」「腰痛」が4割近くあります。毎日、仕事と疲労感を持ち帰っている日常であるといえます。



またグラフの濃い部分は、「ストレス症候群」の典型です。「いらいら」、「根気が続かない」、「やる気がしない」、「気分がすぐれない」、も2割前後あります。毎日がストレスとのたたかいです。中には「人に会うのが億劫になる」と答えた人もいます。

「病気がち」と答えたけれど、「あてはまる状態」が0個の人もいます。1～3個あげた人が4割弱、4～9個の人も4割、10個以上あげた人が1割強います。

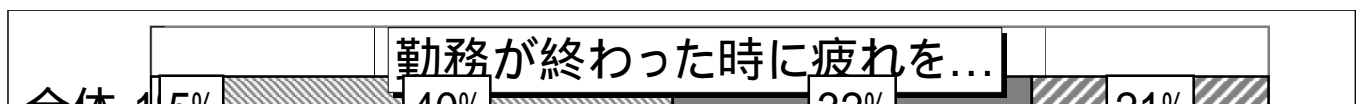


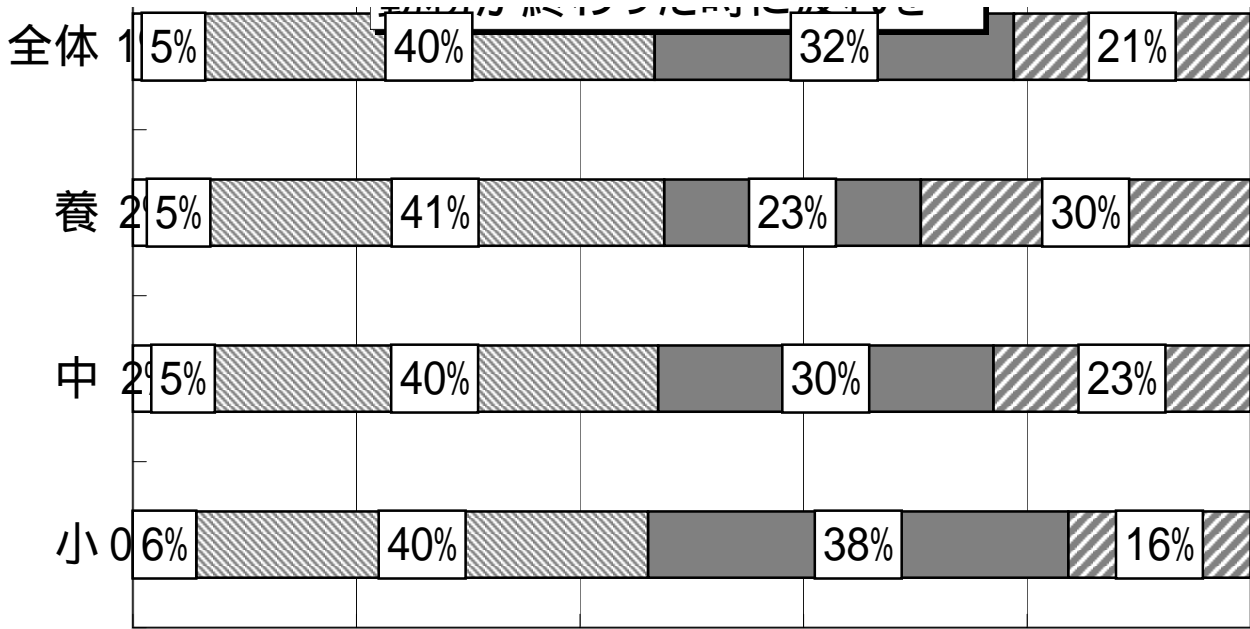
(7)

4 . 勤務が終わった時の疲れ具合は？

「全く疲れを感じない」、「あまり感じない」人は、ごくわずかです。年齢別では20代の多くがそう答えていました。若いからこそ、疲れを感じずに勤務できるのでしょうか。

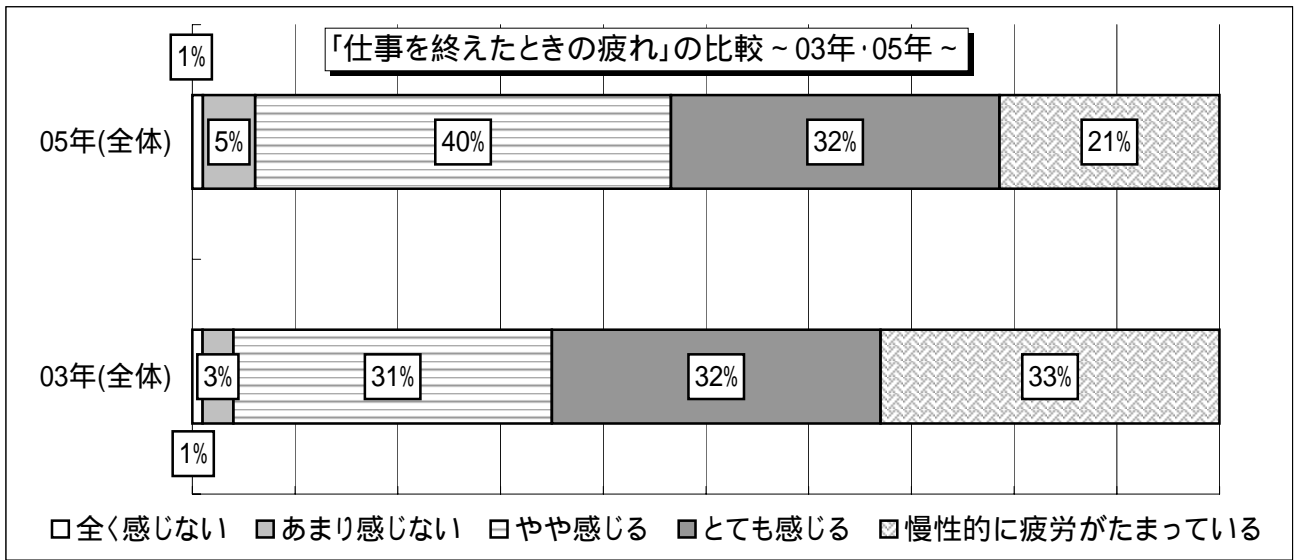
それに対して、疲れを「やや感じる」「とても感じる」という人は過半数います。「慢性的に疲労がたまっている」人は2割います。5人に1人です。特に、養護学校では3割もいます。どの職場で、誰が、いつ倒れてもおかしくない心身の状態です。





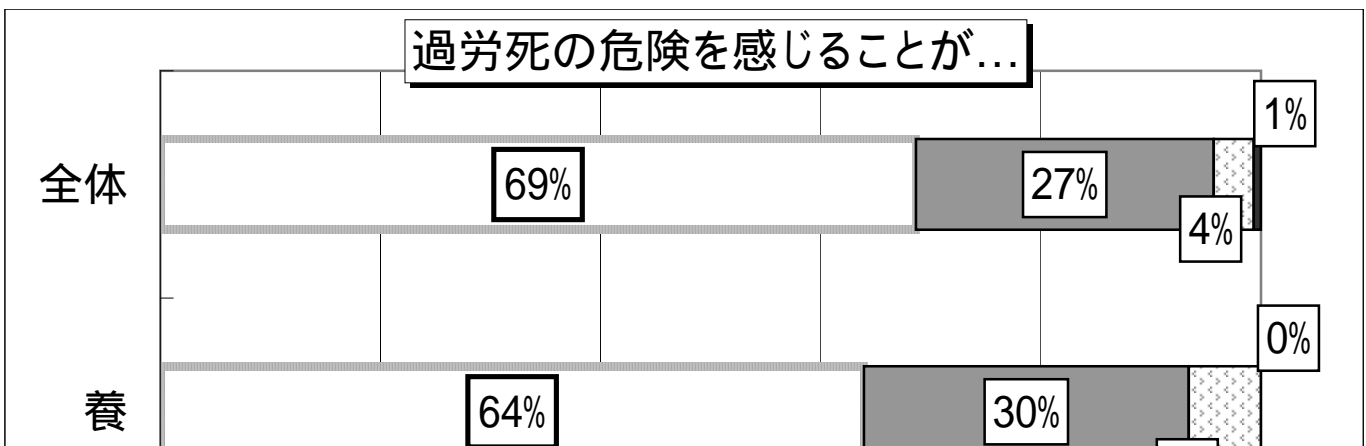
□ 全く感じない □ あまり感じない ▨ やや感じる ■ とても感じる ▩ 慢性的に疲労がたまっている

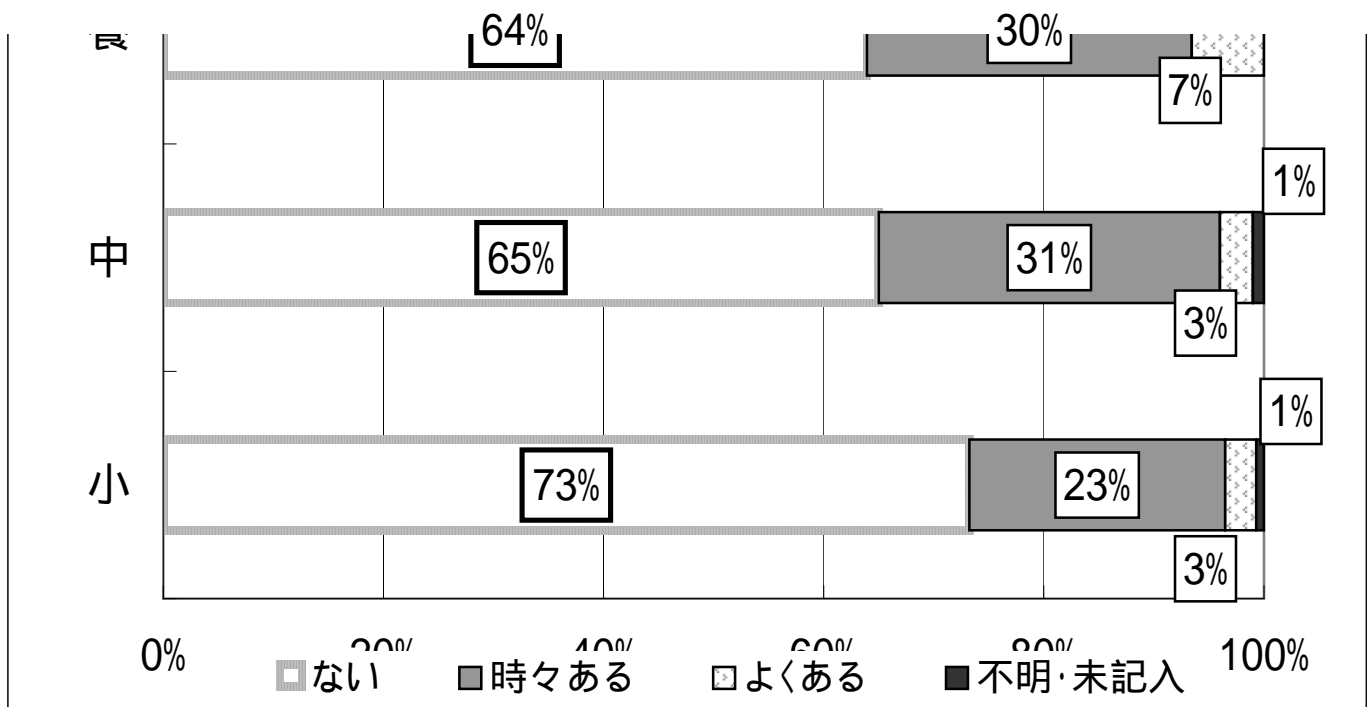
2年前と比べてみましょう。「疲れをやや感じる」が増え、「とても疲れを感じる」は同じ比率でした。「慢性的に疲労がたまっている」が減ったのは、むしろ、疲労感が当たり前のようになっているのかもしれません。



(8)

5. 過労死の危険を感じることはありませんか？



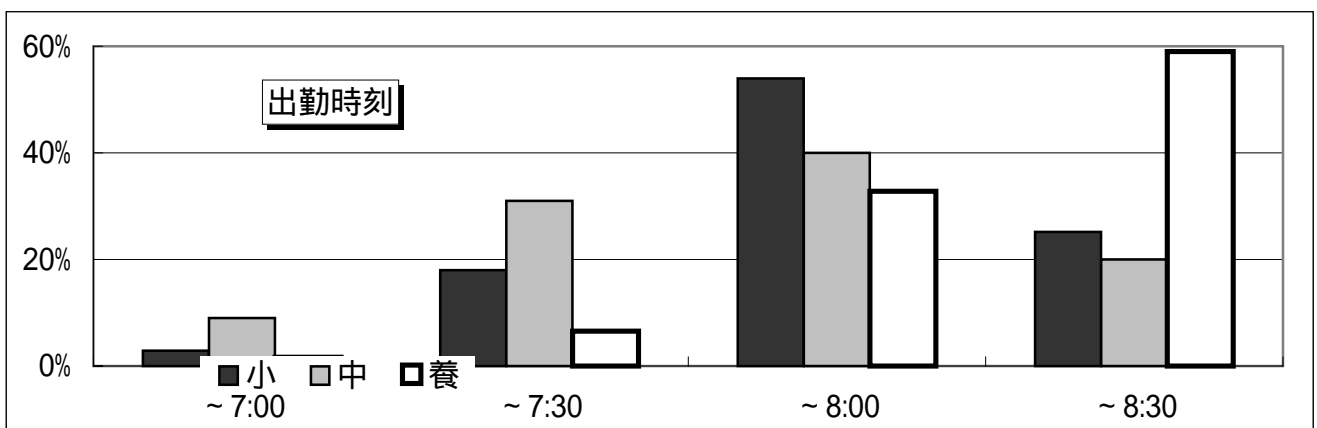


6割強の人は「過労死の危険を感じることはない」と答えています。しかし、どの校種でも、約3割の人が「時々ある」「よくある」と答えています。特に中・養護学校では、3人に1人の割合です。これは異常な状態です。

さらに、養護学校では、「よくある」と答えた人が1割近くおられます。10人に1人弱というのも異常です。

6 . 一日8時間勤務のはずなのに⁽⁹⁾...

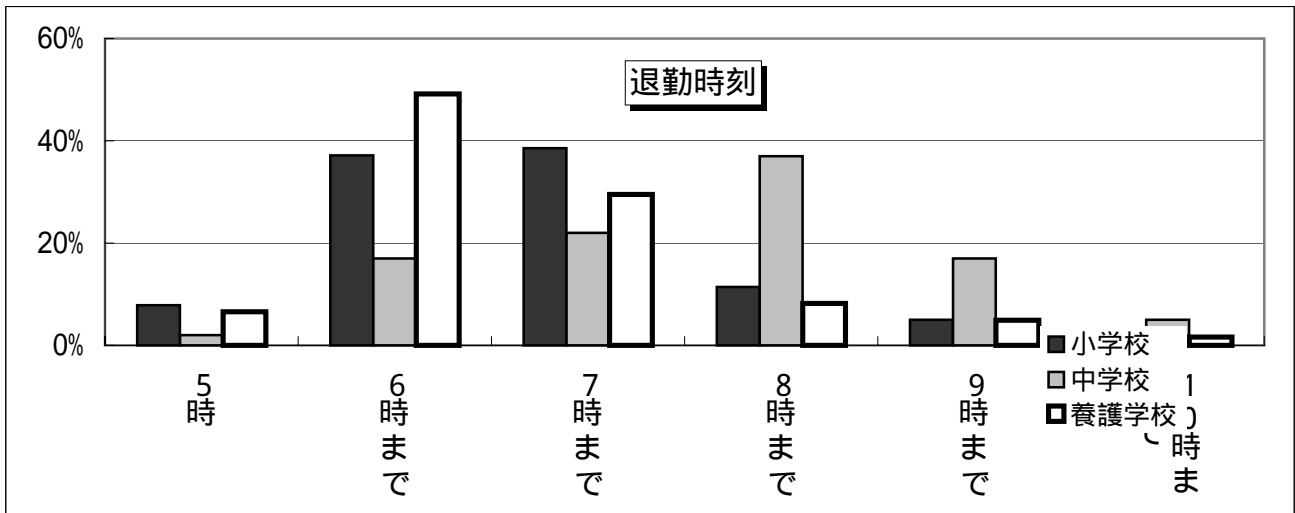
6-1 出勤時刻



市教委発行の季刊「せいとしどう」No.65に興味ある講演記録が掲載されています。「学校現場で先生方は、例えば7時30分ぐらいに出勤し、朝の部活動をやり、8時ぐらいには教室に上がって教室の整備をし、その後、生徒たちを校門で迎え、職員朝礼に出て、そして教室に行くという、もう、分刻みの動きをされておるわけです。放課後や夕方、あるいは帰宅するまで同じような状況です。」これは元中学校長が、ふれあい懇話会で講演した記録からの引用です。

グラフによれば、中学校で、10人に1人は7時前には出勤しています。7時30分までに4割は出勤して

6-2 退勤時刻



さらに退勤時刻を見ると、企業では当たり前はずの「1日8時間労働」+休憩45分は守られていないことが分かります。「限定4項目以外の超過勤務」は法律上、存在しないはずなのに、実態はまさに違法、いや、無法状態です。

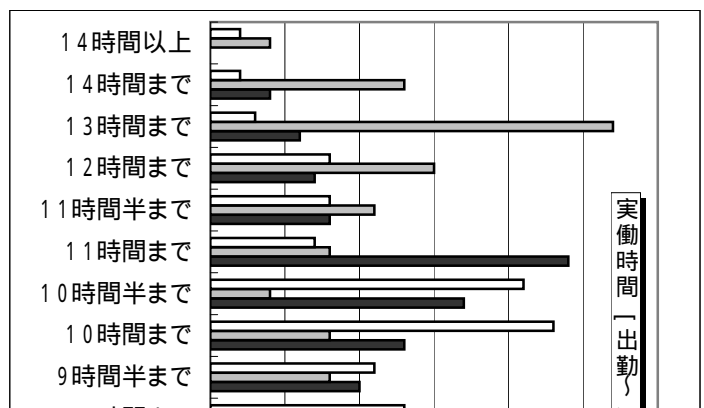
ある養護学校には7:30出勤、10:00退勤という人もいました。実働14時間半は極めて異常な勤務実態です。「多様な授業形態」への対応や諸会議、実務でこんなに遅くまで働かされても、我々教職員には、超勤手当も割増賃金もないのです。

(10)

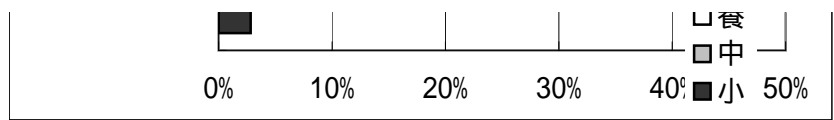
6-3 勤務時間～職場にいる時間

個々の回答から、出勤～退勤の「実働時間」を算出してみました。本来、「職場を離れて」「一斉に」「自由に」とれるはずの休憩時間も働いている実態も考慮しています。まさに働きづめの状態です。

平均労働時間は、小学校が10時間24分、養護学校が10時間30分です。中学校は12時間！1日の半

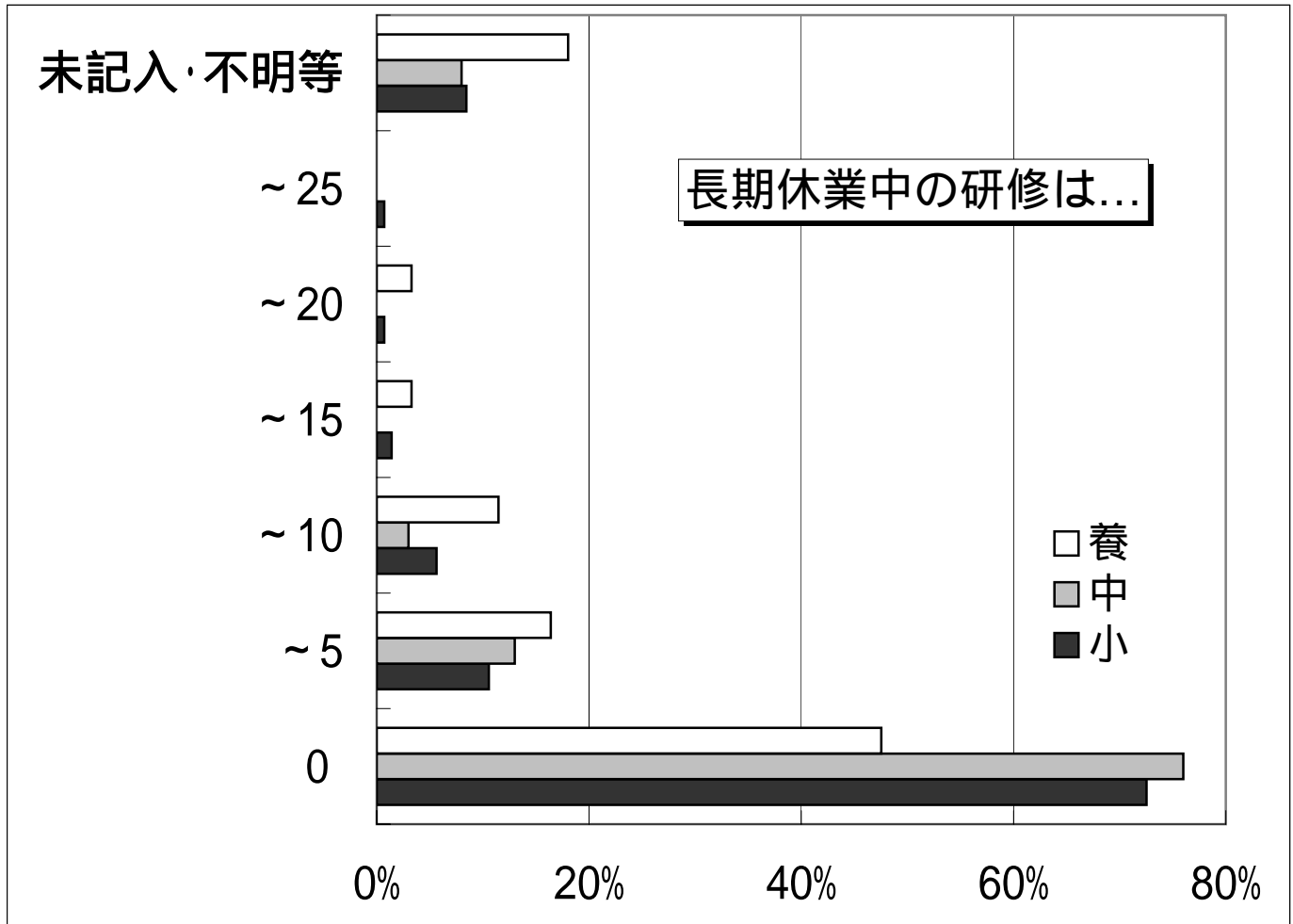


庫負担」制度の根幹的堅持が必要不可欠
です。



(7)

8 . 昨年度、長期休業中の研修は？



法律上、「授業に支障のない限り、職場を離れて取れる」はずの研修が、年々とりにくくなっています。時代の最先端を子どもに語るべき教師が、研修もとれずに教壇に立てるはずもありません。研修権の確保は教師にとって必要不可欠の問題です。

また、事務職員・栄養職員等にも研修権の確保は必要です。どんどん変わるシステムや多様・多岐にわたる職務について、絶えず学ぶ必要があるからです。

研修に関する規定 ~ 教育公務員特例法 ~

第19条

「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない。」

第20条

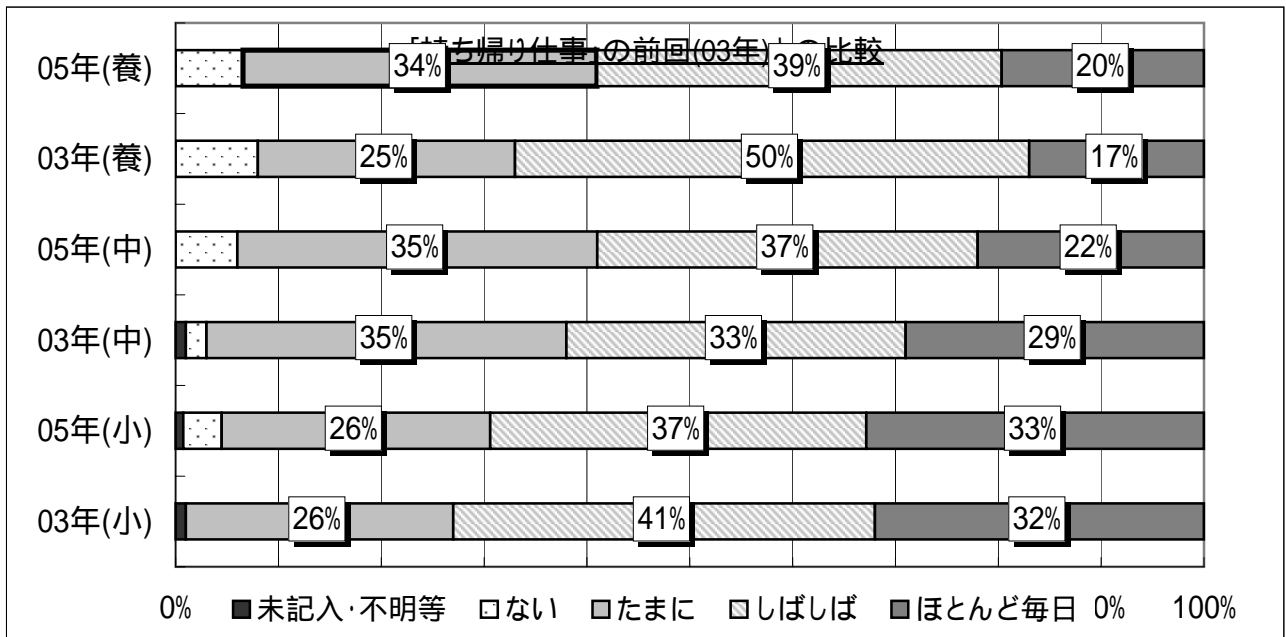
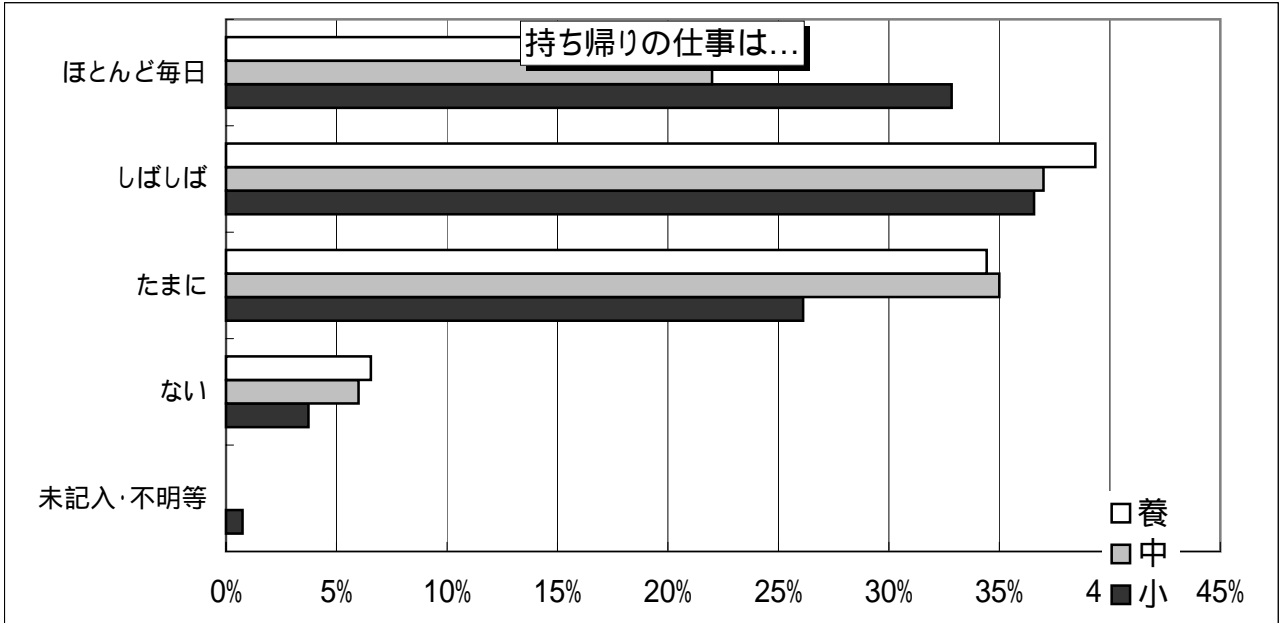
「教育公務員には、研修を受ける機会が与えられなければならない。」

2 教員は、授業に支障のない限り、本属長の承認を受けて、勤務場所を離れて研修を行うことができる。

9. 家に学校の仕事をもち帰ることは？

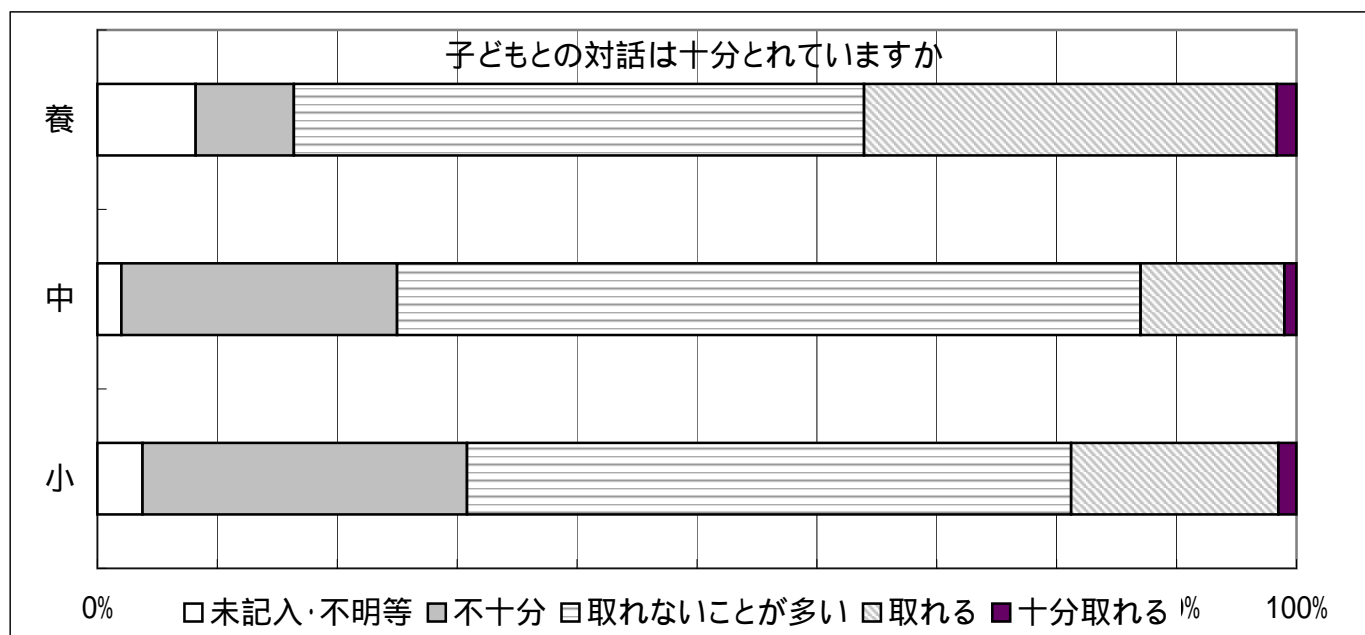
「持ち帰り仕事も業務に入る」という判例も出ています。その持ち帰り仕事を前提にした教職員の仕事って何なののでしょうか？ 定時出勤・定時退勤で、アフター5には家庭に戻る、そんな「ごく当たり前の生活」スタイルを確立したいものです。

ところが、小学校では「ほとんど毎日」あるいは「しばしば」仕事をもち帰ります。それをしないと、授業の研究も提出物の点検や記録もできません。本来の教育活動以外の雑務や会議、報告書類が年々あまりにも増えているからです。



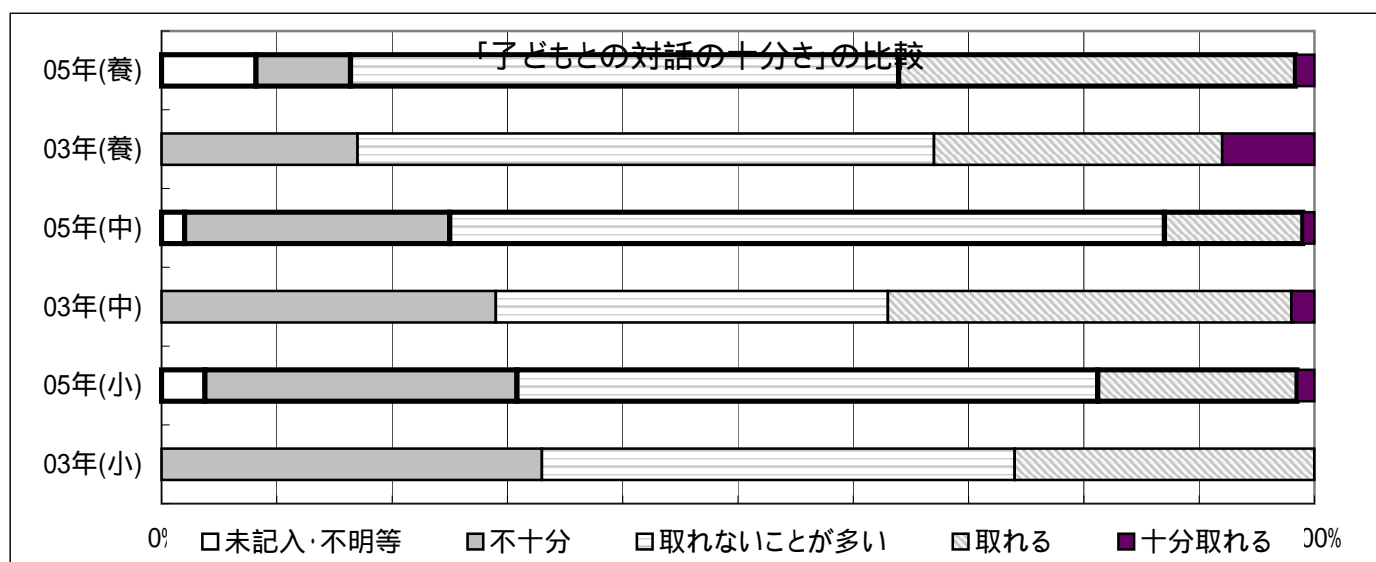
また、前回(03年)のデータと比べると、小学校では「ほとんど毎日」が微増し、中学校では「ない」が微増していることが分かります。又、養護学校では「しばしばある」が減った分、「ほとんど毎日」が増えています。

10. 子どもとの対話や指導などに十分な時間は？



教育活動の中心は子どもとの対話です。1人1人をよく観察して、励ましや適切なアドバイスをするのも基本は会話があってこそ。どの校種も「対話の時間が取れないことが多い」「不十分」と答えており、これでは教育活動に重大な支障をきたすと言わざるを得ません。

特に、「指導不服従」や「授業放棄」など、問題行動が増えている小学校では、6割の人が「対話や指導の時間が取れないことが多い」と嘆いています。学級崩壊は、今やどこの学校でも、どの学級でも起こりうるのです。まして、40人ギリギリの学級では、ますますこれに拍車がかかり、1人1人に温かく接することが困難になります。

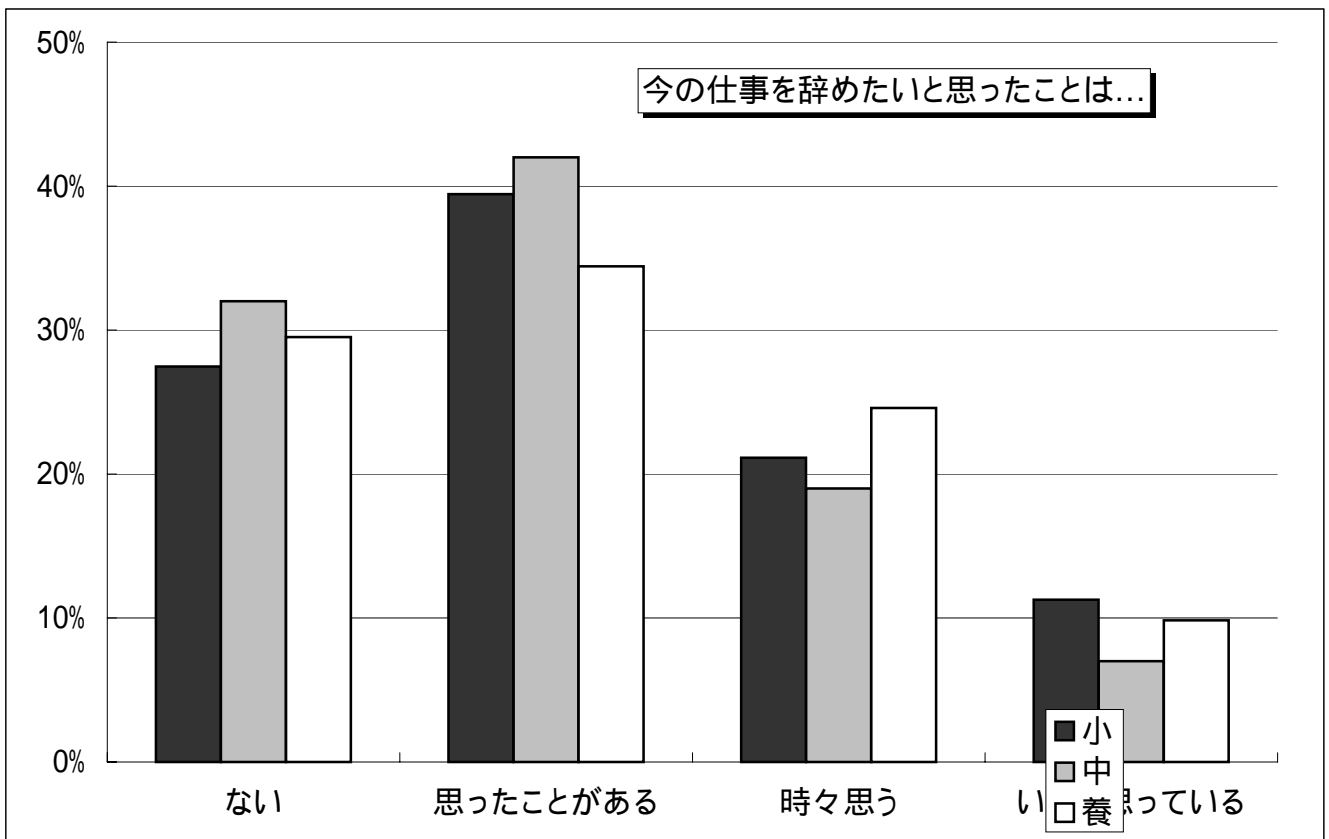


前回と比べると、養護学校では「不十分」と「十分」が減っています。中学校では「不十分」と「取れる」が減り、「取れないことが多い」がほぼ倍増しています。小学校でも、「取れないことが多い」が増えています。

(10)

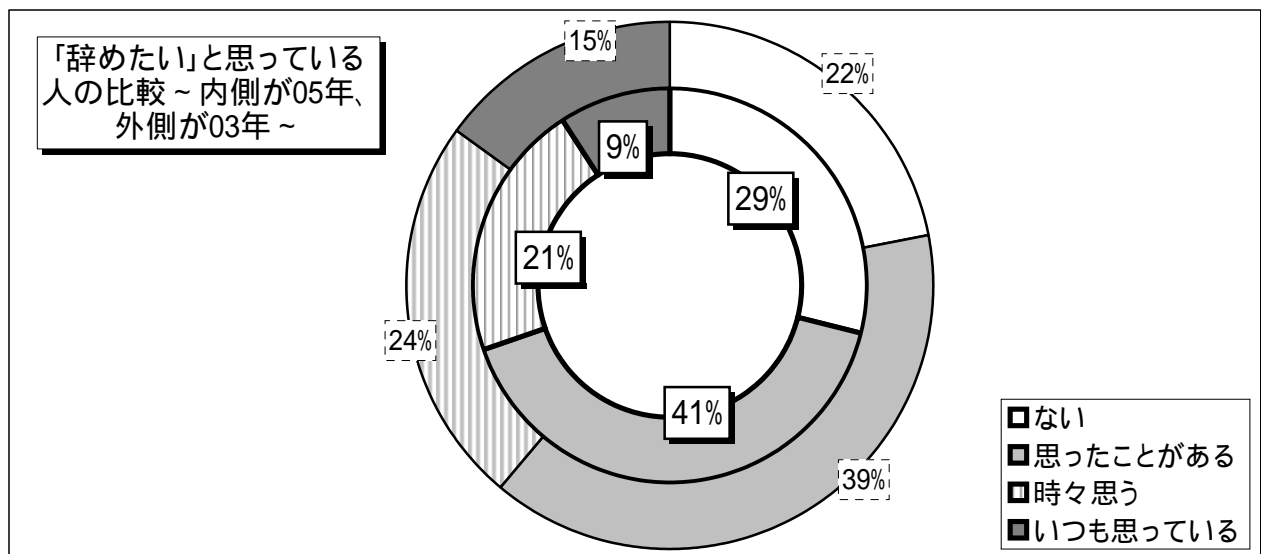
11. 今の仕事をやめたいと思ったことは？

50%



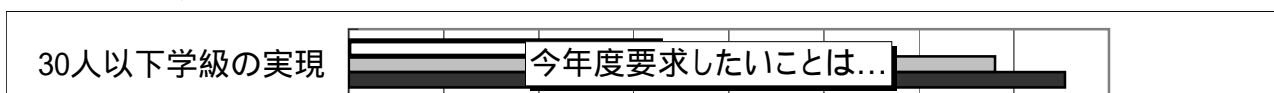
「どの子ども伸びる教育を」と意欲に燃えた教職員の中で、「辞めたいと思ったことがある」「時々思う」のは、合わせて7割もいます。養・小では、「いつも思っている」と答えた人が1割います。10人に1人とは、各校に複数はいるということです。

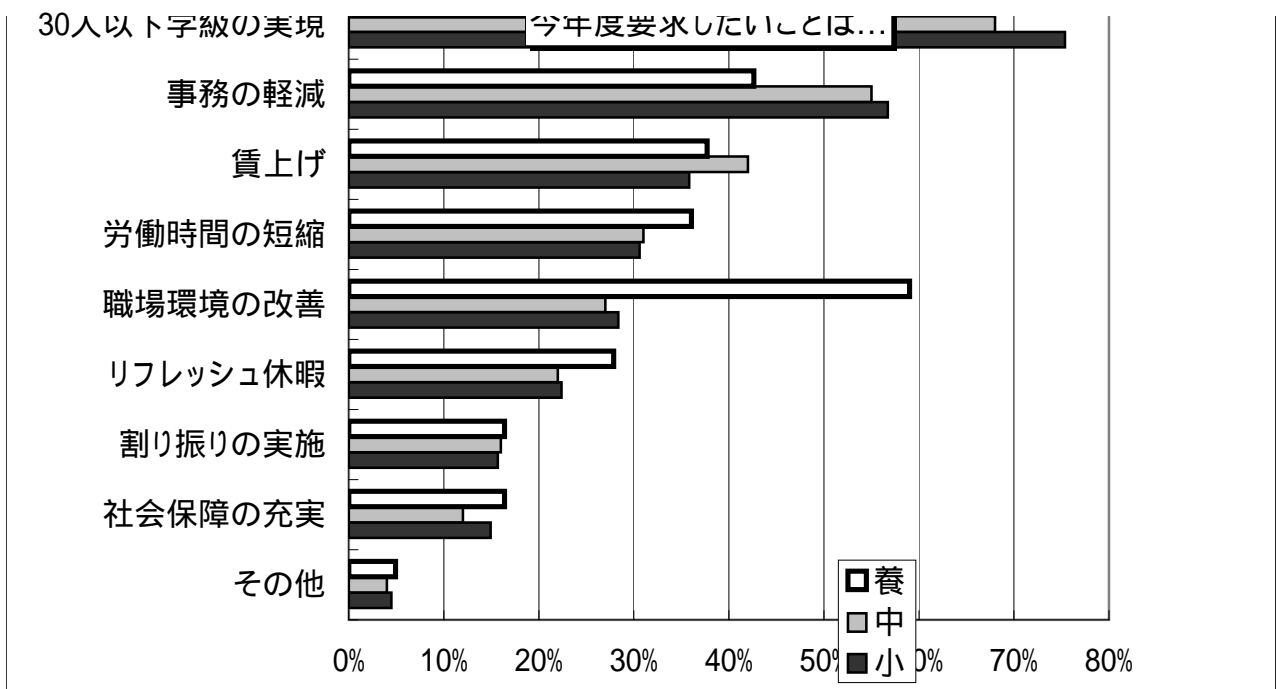
とりわけ、小学校では4人中3人が辞めることについて考えています。労基法にも書いてある勤務時間中の休憩や年休もとりにくい、教特法で決められ職務を進めるのに必要な研修もなかなかとれない、欧米と違いクラスに40人もいる…。これではまともな教育活動を進めていくことに自信をもてなくなるのは当然でしょう。実際、この数年、早期退職者が急増しています。2年前と比べて、「辞めたいと思っている」人は、7割以上いることが分かります。



(11)

12. 今年度、強く要求したいひとは何ですか？





今年度、「強く要求したいこと」を複数回答で書いてもらいました。「30人以下学級の実現」が小・中ではトップにあがっています。これまでに見てきた「子どもの問題行動の増加」、「配慮を要する子どもの増加」に対応し、きめ細やかな教育活動を進めるには、神戸市独自でも予算措置をして、30人以下学級を実現させたいものです。これに関しては、多くの賛同の声が上がっています。代表的な意見を次に紹介してみましょう。

「その他の要求」

< 中学校 > 指導力のある管理職の配置 (賃上げを強調) ~ 20代の女性 給与の制度をかえないでほしい。

< 小学校 > 教員採用について
夏の教室の暑さ
あゆみ・要録を簡易に
教育課程の見直し
仕事は増えるが収入は減る。
児童等の金銭は別の職種に。保護者の要求が多すぎる。公の教育だと認識してほしい。勤務時間が終了すれば、いつまでも残らずに職員は帰った方がいい。
年金は60歳から支給にしてほしい。金額は少し変化してもいいが。
会計事務(の担当者)を増やす

その他の要求について、01・03年度のデータと比べてみましょう。

- ・「30人以下学級の実現」は、つねに6割前後ある強い要求です。
- ・次に「事務の軽減」が、毎回5割強、賃上げが4割弱あります。「*特に事務軽減を」とコメントしている人もいました。
- ・私たちが長年要求してきた「リフレッシュ休暇」が不十分ながら制度化されました。それでも5人に1人は強く願っています。

< 盲・養護学校 > 校舎改築または移転
児童精神科医の巡回
臨時講師も正教員になれる制度、同時に働かない正規教員を退職させる制度

13. 「35人以下学級」について ~ 自由記述

ようやく小学校1年生で実現した35人学級。校種を問わず、あるいは保護者としても、切実な要求です。紙面の許す限り紹介したいと思います。

・ぜひとも全校で30人学級を実現させて欲しい。

・昨年度31人、今年度は37人のクラスを担当していますが、事務量等が格段に違います。ぜひ30人以下学級ができるよう要望します。

1人1人を大切にするという点では好ましい。

・今頃やっと35人以下学級かというのが実感です。

なぜ1年のみかわからない。するなら1～3年にすべき。ぜひ実施してほしい

早く全県下で実施して多くの教員を配置してほしい
(同趣旨の意見多々あり)

教員数の増(同趣旨の意見あり)

教員数を増やしてないので、

県の財政状況にどのような影響があるか気になる。

・35人以下学級になり、教師の数が増えればよいが、それにより経費削減となると困る。

6年生の方が必要なのでは？ / 2年で40人びっしりになったときのこと。

全学年が35人以下学級が望ましい。子どもの対話に人数が少ない方が取れる。

4月6日に106人になり、4クラスにできたように思うが、管理職の対応が不十分で実施できなかった。3月末には106人いたのですが。

希望実施等で、私の勤務校では、35人学級よりも新学習システムの方を選ばれました。年休を取ったりした時、空白になるクラスがないようにとのことで、そのことも望んでいるようです。

新学習システムの先生が1人少なく、補助に入る先生がない事は、日常、年休がとりにくい。

加配がある学校には(35人以下学級が)なかったのがおかしい。

学校の実情に合わせ、1年生でなくても複数指導などができるだけの教員が確保できるといい。

まだまだ、今頃、その程度かと思う。経済先進国なのに、教育行進国。政治家が先進国面(ツラ)で行動するのが恥ずかしくないのかと思う。

・特に最初の1年生はじっくり取り組むためにも望ましい。35人以下と言わず、30人以下でもよい。

全小中学校に広げて欲しい(同趣旨の意見多数)

よいことだ。しかし、中学生も今の体格で40人近く、あの狭い教室にいることも異常だ。

中学校も1日も早く実施して欲しい

より多様な中学生なので、中学校でも実施すべき
これをゴールにせずを広げて行ってほしい。

1年は20人、2年は25人、3年～6年は30人ぐらいがベストかなー。

1年生はひとりひとりに大変手がかかるので、神戸市でも是非実現してほしいと思います。

1年生で基本的な躰ができていと次の学年から非常にやりやすいので、とても良い。

前任校で、1年生が7学級だったが、40人以下で1人加配がつく方を希望していた。35人でも多いので、それなら1年生の時なら教師の多くの目がある方がいいという意見であった。

すごく助かりました。入学間もない子供たちが学校に慣れるのに時間がかかります。

子供の様子がよく見え、話をする機会なども多くとれるという、こまかい指導の面でもとても良いことだと思います。

基礎基本を定着させるのには、今では十分な時間が取れていません。人数を減らして1人1人に関わる時間を長く持てることはいいと思います。また、教員の増員にもなり、よいのでは...

1学級の人数が減ることで、目のゆき届き方がよくなった。(同趣旨の意見あり)

1年生の時はゆとりをもって見るのでよいが、2年になって40人学級になると今までのようにいかず、不満が残るのではないだろうか。(同趣旨の意見あり)

1年生で35人以下、2年で急に40人近い子どもの数という不自然な事は、子どもにとってよくない。現に本校の2年は、昨年度は1クラス30人以下だったのに、急に38人のクラスになり、落ち着きがなく、支援の必要な子どもに手が回らず、担当がとても大変な状態。(福住小)

14 . 職場で改善してほしいことや 教育委員会に言いたいこと

職場は私たちの勤務場所。子どもや同僚と語り合い、笑いあい、励ましあう場です。生き

生きと働ける場所にしたいものです。しかし、現実、さまざまな要求がたまりにたまって
います。

< 中学校 >

職員の人数を増やす(同趣旨の意見多数) 教師の数を増やしてほしい。1人1人が抱えることが多すぎる。

教師の人数を増やして1人あたりの授業数をへらしてほしい。

教員数を増やさない限り、休暇も自由にとれない。

教師にゆとりがないのに、生徒にゆとりはつくれなす。

加配等の工夫をして、先生の数を増やしてほしい

非常勤の待遇。仕事をきちんと配分してほしい。特に、修学旅行等の行事に参加できないのはどうかと思う。

生徒1人1人に対して、余裕を持って接するようにしてほしい。

比較的加配の多かった学校から少ない学校に転勤になりわかったことですが、やはり(教職員の)人数が少なく、問題行動への対応が適切に行われず、又、同じ事を繰り返してしまいがちであり、そうでない生徒が非常に辛い思いをもちたり、学習できる環境を奪われたりと、悪い方向へと転げ落ちていっているように思います。

あまりにも運営費がなすすぎ。何をしても、お金がない、人が足りないのは困る。

ハード面の充実と人員増加が必要。つまらないことに金を使わず、教育に金を入れて下さい。

しかるべき所(教育)に、予算をしっかりとまわしていかもっと教育にお金を使いましょう。

全介助の生徒が希望すれば、普通校に米れる現状がある。選択肢として、それはあってもよいが、そのために教員が増えることもなく、肢体不自由学級の設置基準も、実際にもあまりにも沿っていない。検討を要す。

30人以下学級の実現(同趣旨の意見多数)

30人以下学級実現。「少人数授業」はいらん!!

ゆとりのある生活を保障してほしい

職員みんな、たわいもない話などでもできるゆとりが欲しい

更衣室の改善、クーラーをつけてほしい(教室)

全室クーラーの設置をのぞみます。

通勤手当の起算日方式を、日割計算方式にかえて欲しい。

管理職の横柄な言葉遣い

校長会のみで服務に関する文書等を配るのはやめて欲しい。

部活動の顧問や、あり方についてはっきりし子育て支援

中学校の部活指導について、教育委員会はどう考えているのか、労働時間を完全に無視している。

ボランティアの域を超えている場合が多い。中学校では部活で生徒指導をしていくことが

あたりまえ、不可欠なのに、保障がない。

部活で土日出勤の代休を、夏休みにとれるようになればと思います。

部活動の社会体育への移行

学校の自主的な教育課程の編成を尊重すること。特色ある学校といいながら、どこも同じことをしているのが現状!

ゆっくり教えることができる本とのゆとりがほしい。

総合や選択の内容、ねらいなどの再確認

評価・評定の基準の統一、徹底 評価報告書・研究指定など、どんどん煩雑になっている。

評価のしかたには疑問がたくさんあります。

仕事が集中している

持ち時間数が多すぎるので、勤務時間内に仕事が終わらない。

< 小学校 >

30人以下学級の実現を30人学級 上限1学級40人は多く、1人1人に目がゆきとどかない。

すべての学年で35人以下学級をすばやく実施(同趣旨の意見あり)

へんな加配より、まず1学級の定員をへらすことが、人員確保を!

講師の人がふえているが、本採の人をふやし、研修等も同じように受けられるようにすべき。

正規職員を増やし、臨時講師の給与は、本採によくやっていたい。又、正規職員を増やすことで、事務を公平に分担でき、正規職員の負担も軽減できる。新しい人を

ふやさなくては、と思います

1校あたりの教員の数をふやして職場の人数を増やしてほしい(同趣旨の意見あり)

< 小学校 > ~続き~

子どもとゆっくり話す時間、教材や授業について充分話し合う物理的、時間的ゆとりを作り出したい。

日々の教材研究、評価、会計事務等も、必然的な仕事であるので、割り振りの対象としてほしい。

事務や雑用、職員作業をなくしてほしい。子どもの指導、教材研究など、本来の職務に専念したい。

勤務時間について明確化が叫ばれていますが、家に持ち帰ったり、打合せに時間をとっていることなど、時間の長さだけでは計れない。質と量も考え合わせて欲しいと思う。前任校では出勤・退勤時に名札をひっくり返していました。自分でひっくり返すのも嫌ですが、校長が確認しながらひっくり返しているところもあるとか。今以上にイライラしたりウツウツしたりすることのないような(職場にしてほしい?集計者補遺)

教職員の勤務の時間の柔軟性を認めてもらいたい。時間外勤務の多さと必要性を考えて頂きたい。勤務や評価、人事の企業化を懸念します。

組合との申し合わせでは、昼休みがとれないので、その分、早く帰っていいことになっていましたが、実質的にはムリです。用のある時くらい、4時半以降は時間休をとらなくても帰れるようにしてほしい。

報告書をへらしてほしい。いろんな学校外の活動の窓口として学校を安易につかわないでほしい。

委員会への提出書類が多い。それも、忙しい時期に。その上、形式的なことばかり!!

業務が多忙化するので、教育の予算をふやし忙しい。環境整備。 準公費の事務軽減

個人の仕事の軽重の差が激しい。どうしても仕事をする人に仕事が回ってきている。仕事をしていない人に対して、管理職はきちんと指導すべきだと思う。

親の勝手な要求をはね返す強い態度がほしい。

教室が暑くて、子どもたちの勉強する環境が劣悪である。何とかならないか？

校長に全く管理職の資質がない。なぜ昇進できたのか。

どこの小学校とも限らないが、管理職は親より教職員を立ててくれるものだと思うので、親に丸め込まれるのではなく、堂々と親を説得させられるように、強く居て欲しい。西宮市は子だけでなく親の教育も進んでいると聞いたことがあるので、県や市で取り組んでいって欲しいです。

教育へのロマン、情熱をもつよう管理職を育ててほしい。保身・小心・事なかれ主義の管理職が多すぎる。

教員が会計をするのはおかしい。事務職にまかせて、仕事の役割分担をきちんとして教育に専念したい。

事務的な事もどんどん現場において、忙しさが増している。教育活動を中心にやれるようにしてほしい。

<盲・養護学校>

校舎の建て替え

施設・設備の改善

教室の拡充、職員室等の拡張

学校施設・設備の老朽化改善、プレハブ校舎等の改善

学校が狭い

事故や不祥事が発生した時に意味のない研修を増やすな。不祥事の発生時、もっと教師を守れ。

各教室にお湯が出るようにし、トイレにシャワーを設置して欲しい。

設備が不十分。狭すぎる。管理職が細かいことを言い過ぎ。監視しているよう。

施設の不自由さをかかえたままの教育活動がずっと続いている事。学びの支援センターへ出向した形で欠補を入れないと現場も出向した人も大変。

毎年のように児童生徒が重度化している中で先生の手が足りなさすぎる(介助・授業)。

何故、授業の準備に要する時間が割り振りの対象にならないのでしょうか？

教育環境の整備。様々な部分で改善が必要なのに、どうして直らないのか。

西区か北区で養護学校の新設を

校舎の増改築。教室が足りなさすぎる。

建物の老朽化がひどくて、部分的に修理するだけで、根本的に解決されない

教室が暑くて、子どもたちの勉強する環境が劣悪である。何とかならないか？

エレベーター設置。要介護の児童がいるので、腰痛の心配が多く多くの職員に出てくる

休憩室がほしい

職員のトイレさえない

シャワールームなどを設置してほしい。全ての教室にエアコンを!!

保護者の多々の要求に対して、公の教育機関のあり様(できる範囲はこままで)を明確にうちだしてほしい。

世間のパッシングに左右されない職場環境でおれるよう、強い姿勢で対応してほしい。

15 . 組合への意見や要望

昨年、プロ野球の労組選手会は、史上初めてのストライキを打ち、チーム存続・セパの交流戦・改革協議会への労組の参加などを実現しました。ファンに支えられ、しっかり内部討議を経ての近來まれにみる闘いに、国民こそって支持をしたのです。ここに労働組合の減点をみる思いです。

<中学校>

よろしく願います

がんばって下さい! がんばれ!

< 小学校 >

ごくろうさまです。 がんばれ いつもいつもごくろうさまです
子供たちの教育環境をよりよくするため、一丸となつてがんばりましょう。
労働者の待遇向上に努めてほしい。
組合も職員の権利を全面的にバックアップしてほしい。
いわれない公務員攻撃に屈することなく、権利を守るためにがんばってほしい。

< 盲・養護学校 >

現場と委員会のパイプ役として、これからもがんばってがんばって下さい
まずは持っている権利の確実な広がりのために具体的な要求を。「割り振り」については意義(異議?)有り
人事異動を希望通りに実現できるよう努力して欲しい。
給与より学校内のことでしょうか。
現場職員の立場で、行政に意見を言つて欲しい。何かマスコミに問われた
時、即座に謝るな。よく調べてしっかりと答えて欲しい。

